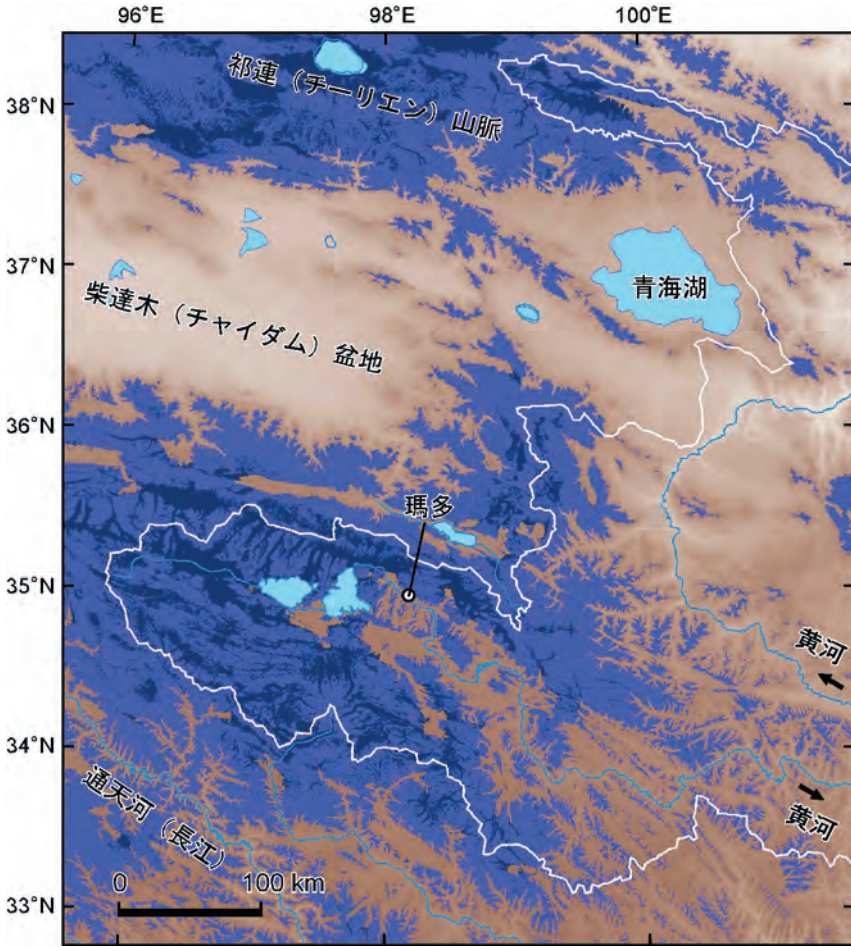
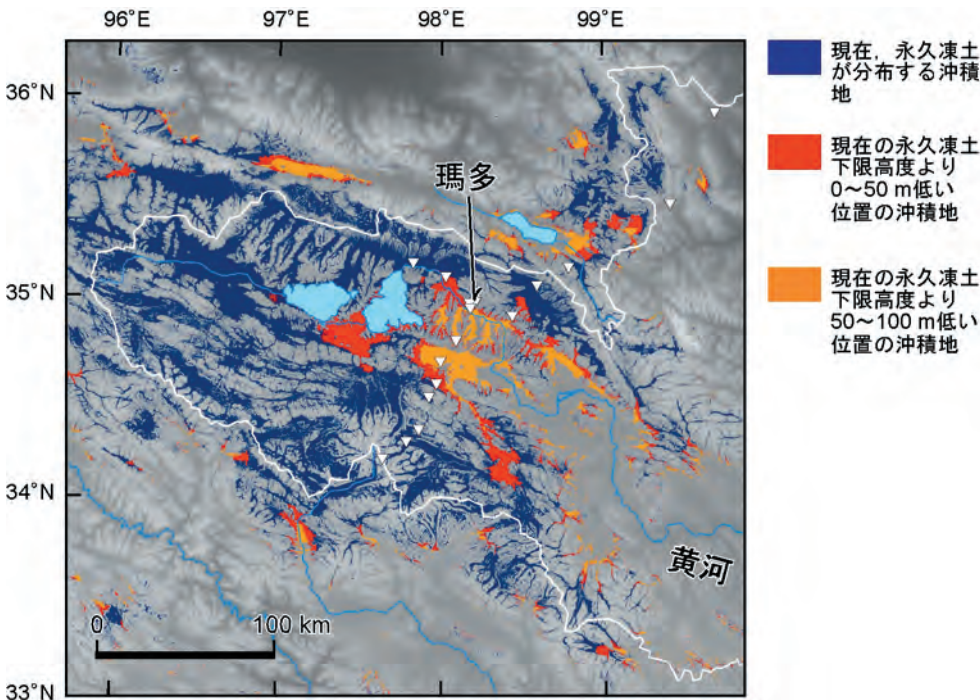


# 黄河流域の永久凍土分布範囲の縮小

＜池田 敦・末吉 哲雄・松岡 憲知・石井 武政＞



第1図  
黄河流域の現在の永久凍土分布の推定図 (薄紫色と紺色の範囲)。紺色は沖積地で、いわゆる凍土(氷を含む土層)が年間を通じて地中に存在する。一方、薄紫色は山地および丘陵地斜面で、永久凍土(年間を通じて0℃以下)となっている部分は岩盤である。紺色の範囲では、永久凍土が不凍水層となって、地下水面が浅く保たれている可能性が高い。



第2図  
永久凍土縮小域の推定図。▽は我々の調査地点を示す。過去半世紀に、少なくとも赤で示した範囲(約2,000km<sup>2</sup>)において永久凍土が融解しており、そのうちの大部分で永久凍土が消失したと予想される。